

教育目標「学び合い 高め合い 共に伸びる子」



佐渡市立七浦小学校

学校だより

令和4年11月30日発行

新潟県 佐渡市立

七浦小学校



No. 9

♪ 来られる時 に来られる方 から さわやか あいさつ うらななうら ♪

今回は12月7日に開催！7:40～8:00 玄関前でお待ちしています！

自分事として考える想像力 一人権教育強調週間

校長 高橋 健

人権という言葉から、皆さんはどんなことをイメージされるでしょうか。法務省では、「人権とはすべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利、あるいは人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらもつ権利であり、だれにとっても身近で大切なもの、日常の思いやりの心によって守られるもの」と説明しています。子どもたちに向けては、「命を大切にすること、みんなと仲よくすること」としています。

そして、次の個別的な課題を「主な人権課題」としています。

- 女性
- 子ども
- 高齢者
- 障害者
- 同和問題
- アイヌの人々
- 外国人
- HIV感染者・ハンセン病患者等
- 刑を終えて出所した人
- 犯罪被害者等
- インターネットによる人権侵害
- 北朝鮮当局による拉致問題等
- その他

学校では、自分も含めたすべての人の人権を大切にすることを育むために、人権教育を進めています。人権教育では、「**知的理解**」と「**人権感覚**」が重要であるとされています。すなわち、人権や人権擁護に関する基本的な知識について理解することと、人権がもつ価値を直感的に感受し共感的に受けとめるような感性や感覚です。

私は、この「**人権感覚**」の育成が最も重要であると考えています。その反面、教えることが非常に難しいです。なぜなら、感覚は人それぞれ異なるからです。

しかし、私がこれまで失敗を重ねながら、子どもたち自身に人権感覚について気付かせる糸口にしてきたことは「**想像すること**」でした。「もしも自分が同じことをされたら、どうだろう？」、「もしも自分の家族が同じ立場だったら、あなたは思う？」と問うことで、子どもたちが自分事として考える場をつくってきました。それまでは、他人事として考えていた子の表情が変わり、真剣に考え始める瞬間を何度も見てきました。

併せて、私たち教師自身の人権感覚を磨いておくことも大切です。日常生活の中で、「あれっ、おかしい」という感覚を研ぎ澄ませ、私たちの姿を見せて子どもたちに教えていこうと思っています。

11月27日付けの新潟日報では、未だ解決が図れていない北朝鮮当局による拉致問題への教育現場の役割について、『『できること』考える契機に』という見出しで記事が掲載されていました。ここでも、自分事として考える想像力が必要になってきます。

「人権感覚」が「知的理解」と結び付いて問題状況を変えようとする人権意識になり、自分の人権とともにすべての人の人権を守るような実践行動につながることを期待しています。

12月4日（日）～10日（木）は、「**人権週間**」です。新潟県教育委員会では、同期間を「**人権教育強調週間**」としていて、当校では6日（火）の授業参観で人権教育を行います。ぜひご覧ください。